

外科研修プログラム

指 導 医 原 彰男・石塚 裕人・早津 成夫

研 修 期 間 基 本 コ ー ス 必修科目 1 ヶ月
選択科目 1 ヶ月から 9 ヶ月
小児科・産婦人科コース
産 婦 人 科 主 科 必修科目 2 ヶ月
選択科目 1 ヶ月から 6 ヶ月
小 児 科 主 科 選択科目 1 ヶ月から 6 ヶ月

1. 目標

(1) G I O

日常診療で頻繁に遭遇する病気や病状の急変に適切に対応するプライマリ、ケアを実践するための基本的な外科と救急医療の診療能力を身につける

(2) S B O

- 1) 患者、家族のニーズを身体、心理、社会的側面から把握し全人的に治療する態度で、治療、手術の必要性を説明できる
- 2) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる
- 3) 医療チームの一員としての自分の役割を理解し、指導医に適切なタイミングでコンサルテーションでき、他の職種と円滑なコミュニケーションをとることができる
- 4) 患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行い、生涯にわたる自己学習の習慣をつけるために、文献検索の方法を習得するとともに治療、手術の適応及び必要性を EBM にもとづき説明できる
- 5) 医療安全管理の方策をみにつけ、院内のマニュアルにそって行動できる
- 6) 院内感染対策を理解し、実施できるとともに各処置、手術の清潔、不潔の概念が説明でき清潔操作ができる
- 7) 治療、手術に必要な情報を得られるような医療面接ができ、インフォームドコンセントにもとづいた同意を得ることができる
- 8) 診療計画の作成にあたり、保険制度を理解し、クリニカルパスを活用できる
- 9) 院内の CPC やカンファレンスで適切な症例提示と討論ができるとともに学術集会に積極的に参加する
- 10) 外科領域に関する病態を正確に把握するため下記に掲げる診察ができ

る

- ① 全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握）から、重篤度を判断できる
- ② 創部の深さおよび感染の有無などの診察ができ、記載できる
- ③ 腹部、直腸の診察ができ、記載できる

1 1) 診察より得られた情報をもとに、外科領域の下記に掲げる検査ができる

- ① 静脈血採血、動脈血採血、血液培養採血ができる
- ② 検尿、便潜血、血液型判定、出血時間検査ができる
- ③ 動脈血ガス分析、血液生化学簡易検査（血糖、電解質、尿素窒素など）ができる
- ④ 心電図検査ができる
- ⑤ 血液生化学的検査、血液免疫血清学的検査、薬剤感受性検査の結果を解釈できる
- ⑥ 簡単な腹部、体表超音波検査ができる
- ⑦ 単純エックス線検査、心機能検査、肝機能検査、肺機能検査の結果を解釈できる
- ⑧ CT 検査、MRI 検査、核医学検査の指示をだし、解釈できる
- ⑨ 内視鏡検査、内視鏡処置の介助を理解し、肛門鏡検査ができる

1 2) 外科領域の下記に掲げる基本的手技の適応を決定し、実施することができる

- ① 緊急時の気道確保（マスク換気、気管内挿管）ができる
- ② 二次救命処置（ACLS）ができ、一次救命処置を指導できる
- ③ 圧迫止血法が実施できる
- ④ 包帯法を実施できる
- ⑤ 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保）を実施できる
- ⑥ 胸腔穿刺、腹腔穿刺ができる
- ⑦ 導尿法を実施できる
- ⑧ 浣腸、摘便を実施できる
- ⑨ ドレーン・チューブ類の管理ができる
- ⑩ 胃管の挿入と管理ができる
- ⑪ 胃洗浄、イレウスチューブ挿入の介助ができる
- ⑫ 局所麻酔法（簡単な伝達麻酔を含む）を実施できる
- ⑬ 創部の消毒、デブリードメントとガーゼの交換を実施できる
- ⑭ 皮膚縫合法を実施できる（ステープラーによる縫合を含む）
- ⑮ 軽度の外傷、熱傷の処置を実施できる
- ⑯ 気管切開の必要性を判断できる

1 3) 外科領域の下記に掲げる基本的治療法の適応を決定し、適切に実施することができる

- ①薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、抗菌剤、副腎皮質ホルモン薬、解熱剤、鎮痛剤、麻薬等の薬物治療ができる
- ②末梢および中心静脈からの輸液について、輸液計画をたて実施する
- ③輸血による効果と副作用について理解し、輸血が実施できる
- ④全身麻酔法について理解し、手術中の循環管理、呼吸管理ができる

(3) 外科医療現場にて経験すべき症状、病態、疾患

全体の70パーセント以上経験することが望ましい

1) 頻度の高い症状

- ① 全身倦怠感
- ② 不眠
- ③ 食欲不振
- ④ 体重減少、体重増加
- ⑤ 浮腫
- ⑥ リンパ節腫脹
- ⑦ 発疹
- ⑧ 黄疸
- ⑨ 発熱
- ⑩ 頭痛
- ⑪ めまい
- ⑫ 胸痛
- ⑬ 動悸
- ⑭ 呼吸困難
- ⑮ 咳、痰
- ⑯ 嘔気、嘔吐
- ⑰ 胸焼け
- ⑱ 嚥下困難
- ⑲ 腹痛
- ⑳ 便通異常
- ㉑ 歩行障害
- ㉒ 四肢のしびれ
- ㉓ 排尿障害
- ㉔ 尿量異常

2) 緊急を要する症状、病態

- ① 心肺停止
- ② ショック
- ③ 意識障害
- ④ 急性呼吸不全
- ⑤ 急性心不全
- ⑥ 急性腹症
- ⑦ 急性消化管出血
- ⑧ 急性腎不全
- ⑨ 急性感染症
- ⑩ 外傷
- ⑪ 熱傷

3) 経験が求められる疾患、病態

- ① 貧血
- ② 心不全
- ③ 動脈疾患
- ④ 静脈、リンパ管疾患
- ⑤ 呼吸不全
- ⑥ 胸膜、縦隔、横隔膜疾患
- ⑦ 肺癌
- ⑧ 食道、胃、十二指腸疾患
- ⑨ 小腸、大腸疾患
- ⑩ 胆嚢、胆管疾患
- ⑪ 肝疾患
- ⑫ 膵臓疾患
- ⑬ 横隔膜、腹壁、腹膜疾患
- ⑭ 甲状腺疾患
- ⑮ 乳腺疾患
- ⑯ 細菌感染症
- ⑰ 真菌感染症
- ⑱ 高齢者の栄養摂取障害

2. 評価

評価はE P O Cを使用し、自己評価及び指導医の評価を行う。